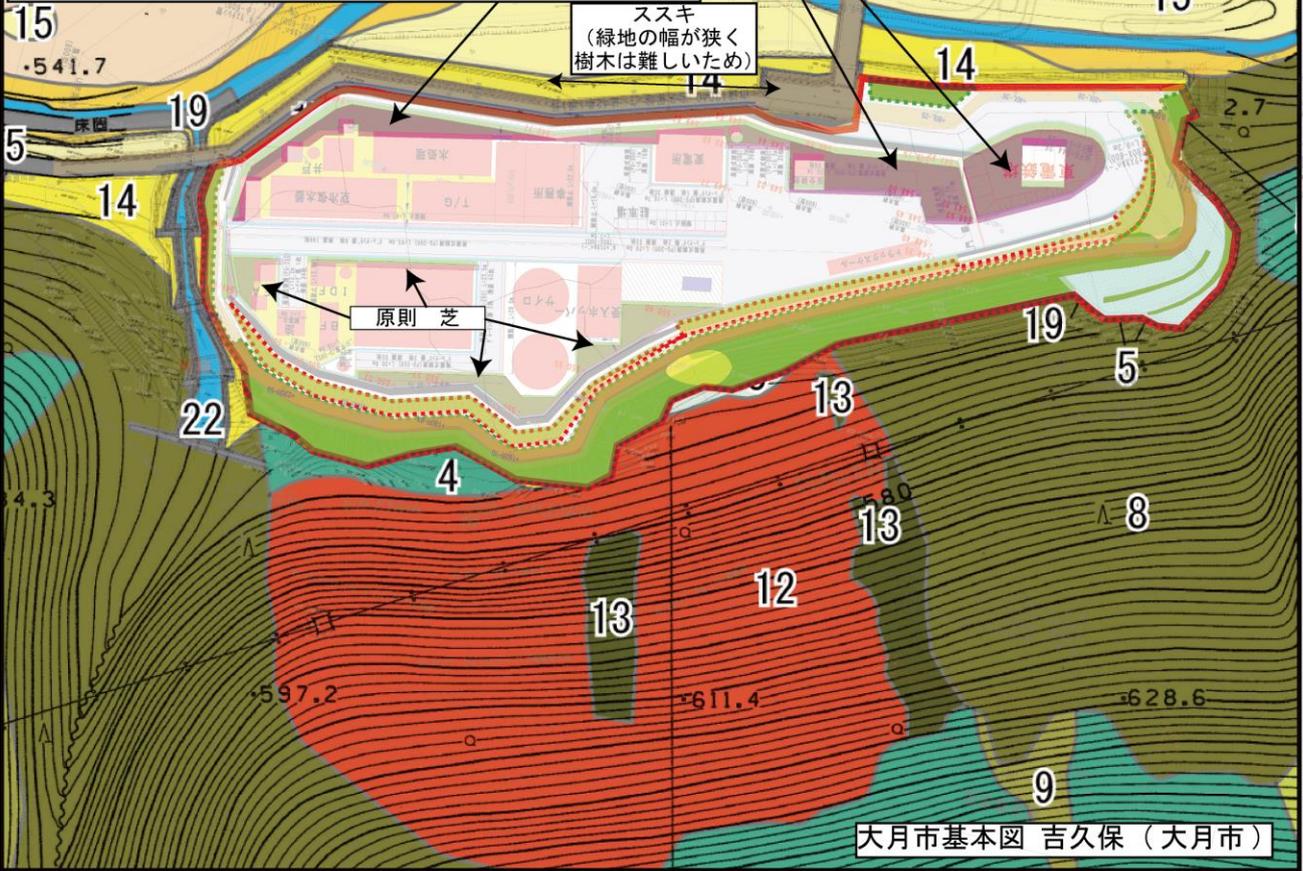


北側の植栽は鳥類をはじめ、多種多様な動植物種が利用しやすい落葉広葉樹の高木や低木を混生させて多様性を保つ。なお、植物種は現地調査で確認されている以下の植物種とする。

		植栽樹種	樹高の目安(m)	
			植栽時	将来
高木	落葉 広葉樹	ナツツバキ	3~6	5~15
		サクラ類(ウラミスザクラ)		
		カエデ類(コハウチワカエデ、イロハモミジ、オオモミジ)		
		エゴノキ		
低木		ヤマボウシ	0.3~2	1~5
		アブラチャン		
		ムラサキシキブ		
		ヤマツツジ		



## 凡例

: 計画地

計画地内凡例	
<span style="border: 1px dashed green; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	緑地緩衝帯
<span style="border: 1px dashed red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	法面緑地
<span style="background-color: #90EE90; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	現状維持: 樹林
<span style="background-color: #FFFF00; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	現状維持: 草地(ススキ群落)
<span style="background-color: #ADD8E6; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	現状維持: 植生が覆う人工構造物
<span style="background-color: #FFD700; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	草地(ススキ群落)
<span style="background-color: #8B4513; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	既存道路
<span style="background-color: #800080; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	植栽: 樹木
<span style="background-color: #800080; opacity: 0.5; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	植栽: ススキ
<span style="background-color: #DDA0DD; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	植栽: 芝
<span style="background-color: #FFFFFF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	市街地等

※既存道路は草木の刈り取り等最低限の道路としての手入れを実施。現況は舗装されていないので低茎草地になるものと想定。

植生区分	群落名	凡例
ヤブツバキクラス域自然植生	落葉広葉樹林	ケヤキ群落 1
	河辺林	フサザクラ群落 2
		オノエヤナギ低木群落 3
ヤブツバキクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	コナラ群落 4
		オニグルミ群落 5
	二次草原	ススキ群落 6
	河川敷砂礫地植生	ツルヨシ群落 7
河辺植生 植林地・耕作地植生	植林地	スギ植林 8
		ヒノキ植林 9
		スギ植林(若齢) 10
		ヒノキ植林(若齢) 11
		アカマツ植林 12
		カラマツ植林 13
		ハリエンジュ群落 14
その他	芝地	ハリエンジュ群落(幼齢) 15
		シバ群落 16
		ヨモギ・アキメヒシバ群落 17
	市街地等	植栽 18
	住宅地、道路、人工構造物 19	
	人工裸地 20	
	自然裸地 21	
	開放水域 22	

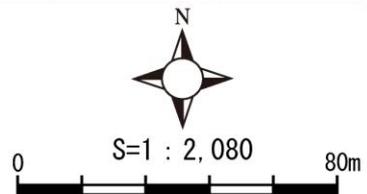


図 9-12-8(2) 緑地緩衝帯位置図(拡大)

### 3) 評価

#### ① 評価方法

##### ア. 回避・低減の観点

評価の方法は、現況調査及び予測結果における環境保全措置の内容を踏まえ、工事中の造成等による土地の改変、存在・供用時の改変後の地形及び樹木伐採後の状態等における保全すべき動物種への影響については、回避または低減されるかどうかを明らかにした。

#### ② 評価結果

##### ア. 回避・低減の観点

保全すべき動物種についての評価結果は、表 9-12-24(1)-(3)に示すとおりである。

以上のことから、工事中の造成等による土地の改変、存在・供用時の改変後の地形及び樹木伐採後の状態等における保全すべき動物種への影響は、回避・低減される。

表 9-12-24(1) 保全すべき種の評価結果

評価対象種		事業実施にあたり生息への影響があると予測された種	評価結果
鳥類	オシドリ	○	<p>工事時において、計画地内から排出される濁水の笹子川への流出がある場合は本種の生息の影響があることが予測された。そこで本種の生息域である笹子川の水質環境維持のため、<b>造成工事に先立ち、仮設沈砂池及び仮排水路を設置し、工事中に発生する濁水が笹子川に直接流出するのを防止することにより本種の生息環境の保全を図るものとする。</b>また、工事中に発生する廃棄物及び作業員の飲食により発生するゴミの<b>管理、処理方法を徹底し、水質悪化の防止を図ることにより本種の生息環境の保全を図る。</b>事後調査において、環境保全措置の効果を<b>確認・検証し、効果が発揮されない場合には、環境保全措置の改善を図るものとする。</b></p>
	ハイタカ		<p>計画地内で本種が繁殖に利用する大木の樹林が存在しないこと、確認例数が少なく事業地周辺での繁殖も確認されなかったことから、事業による影響はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。</p>
	クマタカ	○	<p>クマタカの繁殖地は計画地から800m離れた位置にあるため、工事中における本種の繁殖には直接影響はないと予測されたが、計画地は営巣地から直接見える位置にあるため、<b>敏感度が最大となる抱卵期～巣内育雛期に大規模な工事作業を継続して実施する場合は繁殖への影響があるものと予測された。</b>また、施設の存在、供用時において、事業計画地はクマタカ営巣地域の最大行動圏内に含まれており、クマタカが事業計画地上空を飛翔する場合は、白煙の発生時期である時期にはクマタカの飛翔への影響があるものと予測された。そこで、クマタカの繁殖に影響を及ぼさないよう、<b>大規模な工事作業等については敏感度が最大となる抱卵期(2～6月)を避けて行う等、クマタカの繁殖期に配慮した工事工程とする。</b>また、工事及び建設機械の集中稼働を低減し、<b>低騒音型の建設機械を使用することで騒音レベルを抑える。</b>また、工事開始前に騒音等のモニタリングを行い影響の把握を行う。影響があると判断された場合及び事後調査においてクマタカが工事に対する忌避行動を確認した場合は<b>工事を速やかに中断し工事の馴化(コンディショニング)を行う。</b>また、本事業計画に係る送電線路の設定にあたり、送電線路が猛禽類の95%利用域を通過する可能性を考慮したものとなるよう、<b>関連施設の設置事業者に対し観測結果等を情報提供する。</b>施設の存在、供用時にはクマタカの繁殖に影響を及ぼさないよう白煙の状況をモニタリングし記録する。事後調査において、環境保全措置の効果を<b>確認・検証し、効果が発揮されない場合には、環境保全措置の改善を図るものとする。</b></p>

※：太字は環境保全措置とその効果を示す。

表 9-12-24(2) 保全すべき種の評価結果

評価対象種		事業実施にあたり生息への影響があると予測された種	評価結果
哺乳類	カワネズミ	○	工事時において、計画地内から排出される濁水の笹子川への流出がある場合は本種の生息の影響があることが予測された。そこで本種の本種の生息域である笹子川の水質環境維持のため、 <b>造成工事に先立ち、仮設沈砂池及び仮排水路を設置し、工事中に発生する濁水が笹子川に直接流出するのを防止することにより本種の生息環境の保全を図るものとする。</b> また、 <b>工事中に発生する廃棄物及び作業員の飲食により発生するゴミの管理、処理方法を徹底し、水質悪化の防止を図ることにより本種の生息環境の保全を図る。</b> 事後調査において、環境保全措置の効果を確認・検証し、効果が発揮されない場合には、環境保全措置の改善を図るものとする。
	ムササビ		事業実施区域内では本種は確認されなかったこと及び計画地周辺域での利用は少ないことなどから事業による影響はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。
	カヤネズミ	○	工事時において、計画地内で本種が確認された草地在り、計画地内における本種の生息への影響が予測された。そこで、 <b>計画地の外周に緑地緩衝帯を設け、周辺環境との連続性を保ち、緑地緩衝帯をエコトーンとして機能することにより、個体群の回復を図る。</b> 事後調査において、環境保全措置の効果を確認・検証し、効果が発揮されない場合には、環境保全措置の改善を図るものとする。
	ツキノワグマ		計画地内で本種の確認がないこと、本種の確認例数が2例と少ないことから、周辺地域における利用頻度は低いものと考えられ、事業による影響はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。
爬虫類	タカチホヘビ		本種の生息環境は計画地周辺には多く残存しており、工事時及び発電所の存在・供用時もそれらの環境維持されることから、本種の生息への影響はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。
	シマヘビ	○	計画地周辺では本種の生息個体数も比較的多く、大部分の個体は生息環境が維持されるものと予測されたものの、工事時において本種の一部の個体群では直接的な生息の影響を受けることが予測された。そこで、事業計画内で確認されている本種の個体群の保全のため、 <b>計画地の外周に緑地緩衝帯を設け、一部本種が生息可能なススキなど高茎草地及び樹林帯を保全し、個体群の回復を図る。</b> また、 <b>工事中及び発電所供用後の生木屑チップ等燃料運搬における車両運転者にロードキル防止の注意喚起をすることによって、本種ロードキル防止策を講じるものとする。</b> 事後調査において、環境保全措置の効果を確認・検証し、効果が発揮されない場合には、環境保全措置の改善を図るものとする。

※：太字は環境保全措置とその効果を示す。

表 9-12-24(3) 保全すべき種の評価結果

評価対象種		事業実施にあたり生息への影響があると予測された種	評価結果
昆虫類	オオムラサキ		計画地内には本種の生息環境であるクヌギ及び食樹となるエノキの大木が存在しないため、本種の計画地内での繁殖はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。
	トゲアリ		計画地内には本種の生息環境である立木のうろは存在せず、本種の確認位置も土地の改変を受けない計画地周辺域であることから、本事業実施計画に基づく直接的な造成などの土地の改変による本種の生息への影響はないものと予測された。したがって、事業による本種の利用環境に影響はないものと考えられる。